

「地質ってなーに？」企画展

池辺 伸一郎¹⁾

1. はじめに

2007年に制定された「地質の日」に関連し、(財)阿蘇火山博物館においてもその趣旨に賛同し、企画展示を行った。ここではその内容、展示状況等について報告する。

従来から当館では、「阿蘇」や「火山」を中心として展示や博物館活動を実施してきた。しかし、どうしても「地質」に関連した内容は一般の人や子どもたちには取っつきにくく、難しいというイメージが先行してしまう。展示物にしても、岩石が中心となってしまう、興味のある人となない人の受け入れ方の差が大きくなってしまふ。このようなことを如何にして解消し、より多くの人や子どもたちに「地質」について身近に、親しみを持って受け止めてもらうかは、我々のような博物館にとっては大きな命題である。

今回、「地質の日」が制定されたことは社会的には大きな前進だと感じ、また同時に「ジオパーク」活動などが盛んになってきたことで、世の中に「地質」という文字の露出度が高くなって、一般の人々の目にとまりやすくなってきていることも好材料である。「地質」が市民権を得るような時期が少しずつ近づいていると感じる。

そのような流れの中で、当館においても微力ながら「地質」の理解に貢献できればと願って、企画展示を実施した。

2. 企画の概要

企画展示の概要は以下のとおりである。

- ・期 間：2008年4月26日(土)～6月20日(金)
- ・場 所：博物館3F展望ホール及び企画展示室



写真1 「地質ってなーに？」企画展示室の様子(地質屋さんの部屋)。

1) 財団法人阿蘇火山博物館 久木文化財団
869-2232 熊本県阿蘇市赤水1930-1

キーワード：阿蘇火山博物館, 地質の日, 博物館, 企画展

- ・タイトル：「地質」ってなーに？
- ・主催：(財)阿蘇火山博物館
- ・共催：熊本大学(包括的連携事業)
- ・内容

(1) 「地質」ってなーに？

地質や地質の日にに関する概要解説。

(2) 大地は動物や植物、人間が生きる基盤

「動植物や人間にとって、地質は生きるための基盤となっているもので、いつもは何気なく見過ごしている地層や石ころを、もう一度見直してみよう」という主旨のパネル展示。

(3) 地質屋さん(地質学者)の部屋(ハンマー、くさり鎌、野帳、ルーペ、GPS、地形図、長靴、机、いす、ルートマップ、帽子、作業着、軍手など)

地質について調査を行い、それをまとめる、または岩石の観察や実験などを行う部屋を再現(写真1)。

(4) 地質を見ると何がわかるの？

「地質は地球からのメッセージ」と銘打って、地層の状況やその構成物の種類などから様々な情報を読みとることができることを説明。また「岩石や火山灰を顕微鏡でのぞいてみよう」のコーナーでは、椀がけをやって実体鏡やルーペで実際にのぞいてもらった。

(5) 阿蘇の地層と地層をつくるもの

火山灰の地層断面写真と火山灰の実物資料を展示。クロボク、水蒸気爆発による火山灰、スコリア、灰噴火の産物、アカホヤ火山灰の5種類をバケツに入

れて展示し、欲しい人には持ち帰ってもらった。

(6) 化石が見つかる地層

熊本の天草周辺の堆積岩の状況を写した写真や、周辺に産する大型の貝化石(熊本大学教育学部田中 均准教授より借用)を展示(写真2)。また、同大学で不要となった貝化石を含む岩石をもらって、子どもたちに配布した。

(7) 火山がつくるいろいろな地層

阿蘇周辺でみられる「不思議な地層」、「貴重な地層」、「きれいな地層」などの写真展示。具体的には、阿蘇周辺の滝、工事現場で露出した地層、溶岩がつくる“石橋”、アグルチネート、古土壌をはさむ火砕流堆積物など。

(8) 地質図パズル

阿蘇火山地質図、日本列島地質図について、ジグソーパズル形式で楽しみながら、地質図に親しんでもらえるようにした。

(9) 体験コーナー

貝化石のレプリカづくり、火山灰の実体鏡観察(椀がけ)など。

(10) 地質グッズの展示販売

産総研の監修によって作成された「化石チョコ」をはじめ、地元業者によって作られた「スコリアチョコ」を展示し、エントランスのインフォメーションセンターで販売した。同時に地元の地質図や化石の販売を行った。チョコレートは子どもたちに人気があり、売れ行き



写真2 「地質ってなーに？」企画展示室の様子(大型化石など)。

は好調であった。

なお、子どもたち向けのイベントとして、5月5日に「溶岩のつくる不思議な形，地層観察ツアー」を計画したが，雨天のため中止となった。

3. 展示に対する入館客の様子

やはり文字情報を中心としたパネル展示には，あまり興味を示してはくれなかった。しかしこれまで以上に，やさしい言葉づかいに心がけ，見る人が能動的に参加できるような展示物をそろえたことから，多くの人々に興味を持ってもらえたのではないかと感じている。

展示の中で，人気の高かったものについて3点ご紹介する。

①大型化石の展示とレプリカづくり

やはり化石に対する子どもたちの人気は根強いものがある。イノセラムスやアンモナイトなど，大きな化石の周辺には常に子どもたちが集まっていた。今回は実際に，手に触れてもらえるようにしたことから，より親しみを持ってもらえたようである。この企画によ



写真3 体験コーナーの様子(手前が実体鏡での火山灰観察，奥が化石のレプリカづくり)。

って，化石が傷つけられることはなかった。

また，菌形印象材を用いて貝化石のレプリカ作りを実施した。これにも多くの子どもたちが参加し，作ったレプリカは喜んで持ち帰ってくれていた(写真3)。

②地質図のジグソーパズル

地質図をそのまま展示してもたぶん興味を持ってはくれないだろうという考えから，準備段階の時期に来てくれていた地元大学の学芸員実習生たちの発想によって，地質図のジグソーパズルを作成した。展示



写真4 地質図のジグソーパズル。



写真5 火山灰の地層断面と火山灰実物資料。

コーナーを覗くたびに、このパズルが“完成”されており、多くの方がパズルに挑戦していたことが伺える。もちろん、こちらが期待するような“地質構成や分布の特徴などを考えながら”遊んでくれた人は少ないと思われるが、少しでも地質図というものに親しみを持ってくれたのではないかと感じている(写真4)。

③火山灰の地層断面と火山灰配布

阿蘇の東側には、主に中央火口丘群からの火山灰やスコリアからなる厚い地層が分布している。数年前に地元で農道を造る際に、巨大な露頭がいくつも出現し、その中の一つを大型写真パネルにして展示した。色の変化や縞模様もきれいなことから、多くの入館客の方がこの写真に見入っていた。また、このなかで、特徴ある5種類の火山灰を実際に採取し、それぞれバケツに入れ展示した。さらに、「腕がけ」のやり方、観察の仕方を書いた紙を貼って、興味のある人は火山灰をビニール袋に入れて持ち帰ってくださいというメッセージを出した。こうすることによって、子どもたちばかりでなく、たくさんの方々が火山灰を持ち帰った。とくにゴールデンウィークの間は、火山灰の補給とビニール袋の準備が間に合わないほどであった。もちろん、「ただでもらえるから・・・」ということだけで持って行く人も少なくないのであるが、中には親子で熱心に説明を聞きに来る人や、後日家から電話

で見方を尋ねたりというケースもたくさんあった。またいくつかの学校からは「展示してあった火山灰を送って欲しい」といった要望が寄せられ、そのうちの1校からは、後日腕がけをして顕微鏡観察をした様子の写真が送られてきた。さらに、期間中に入館した小学校の先生から、火山灰の地層断面について子どもたちに説明してほしいといった要望もあった。

このようなことから、多くの人々の火山灰や地層に対する見方もだいぶ変わったのではないと思われる(写真5)。

4. 最後に

冒頭書いたとおり、「地質」という言葉の露出度が高くなることは大変好ましいことである。私たちの地球や大地にもっと興味関心をみんなに持ってもらおうことが、地球科学の発展や地球環境の保持にもつながるものである。

今後とも地球の営みの不思議さやおもしろさについて、博物館として多くの情報を流していきたい。

IKEBE Shin-ichiro (2009) : The special exhibition about "What's GEOLOGY?!"

<受付：2008年10月29日>